

【エッセイ】

大東文化学院の学生帽子 ——角帽（帝大型）である理由を探る——

昼間 良次

今では、学生服を着る大学生は皆無で、日常的に着用するのは応援団くらいでしょう。しかし、その名の通り、以前は学生の象徴でした。学生帽子も同様です。

応援団に所属し学生生活を送った私は、詰め襟の学生服を4年間着用して過ごしました。団旗を掲げる際には、学生帽子（以下、学帽）を着用する決まりになっています。入団した際に応援団の決まりが多数あり、その内の一つに「学帽は帝大型」である旨が「大東文化大學全學應援團 教本」に定められていました。また、私立大学では大東文化大学（以下、大東）だけが帝大型を着用できる、と先輩から教えられた経験があります。

帝大型とは、上部（天井）の四角い帽子、すなわち角帽です。他大学応援団と応援合戦をする機会には各大学が団旗を掲げるので、その際には学帽を着用する姿が見られます。他大学の多くは角帽でなく、丸型が多かった記憶があります。しかし、なぜ型が違うのか疑問に思うことはありませんでした。帝大型を着用しそれが大東だけなのだと教わっていて、理由が分からないながらも、それが何とも誇らしかったように思います。その後、無我夢中で応援団員生活を送り、学帽のことはほとんど意識することがありませんでした。

平成29年（2017）の春、足立区生涯学習センター（北千住）が主催する教養講座（講師：お茶の水女子大学 難波知子 准教授）があり、学校制服の歴史を知る機会がありました。日本の学校制服の由来と変遷を服飾史の中に位置付ける講演内容で、聴くこと全てが新鮮に感じられ驚くことばかりでした。私自身は学生服に詳しいつもりでしたが、その歴史や経緯、意味については全く説明できないことに気付いたのです。そして、大東の学帽が帝大型である理由について、深く考えることなく疑問にすら思っていないことを意

識することになります。

卒業して20年余り経ち、大東の歴史に関心が向いています。調べてみると、その輝かしい歴史を知り、ふつふつと勇気が湧いてきます。調べる度に伝説や神話に触れ感動すると同時に、人に伝えたいという思いが強くなるのです。学帽の由来を知りたくなり、一念発起して調べることにしました。

帝大型とは学生帽のルーツで、明治19年(1886)に東京大学が帝国大学となり、その際に角帽を制帽にしています。黒ラシャ(ウール)の角帽は以後各公立・私立大学の制帽の標準型になります。そこから派生した学校には第一高等学校(現・東京大学教養学部)があり、同年に丸型帽子(海軍士官の軍帽型)を採用します。その2年後には、側面に細い白線1本を巻くように改良されます。これが中学・高校の制帽の標準型になっていき、一高型と称されます。他にも、第三高等学校(現・京都大学)は腰に細い白線3本を巻いたドイツ型(陸軍軍帽型)で、三高型と称され小学校の制帽の標準型となりました。他にも慶應型、角帽(早稲田型)があります。

それでは、大東が角帽(帝大型)を着用する根拠は何なのでしょう。調べてみると、昭和2年(1927)2月改訂「学生服制」で定められていることが判りました。その由来についても、エピソードが紹介されています。大東文化学院が開校した大正12年(1923)直後の話として、入学後に全員が伊勢参宮する恒例行事があり、その際に統一した服装にする為、制服を黒の詰め襟とし、帽子は帝大型と早稲田型の2つを検討して、線の柔らかい菱形の帝大型にした、というのです¹。

これを読む限り、角帽にすることは間違いなく、その中でも特徴的な2つの型の中から帝大型を採用したと理解できます。当時の学制において大東文化学院は専門学校で、現在で言えば大学の学部相当と考えられます。なぜなら、昭和24年(1949)の新制大学令により、それまでの専門学校(旧制)は一斉に大学に昇格するからです。角帽は大学生の象徴であり、条件的には

1 大学新聞「大東文化」(昭和47年2月1日、第236号1面「母校の半世紀」)

大東文化学院の学生も角帽を着用する対象であったといえます。

そして、学生の時に聞いていた「私立では大東だけ」という資料についても、関係する記述を見つけました。昭和48年（1973）に発行された学生自治会の機関誌「緑桐」で、その口絵に学帽が紹介されており「この学帽は文部省において認められ 日本では大東と帝大の二つである」と説明してあります。

ここで疑問に思うのは、大東が角帽（帝大型）を制帽とするには、文部省の認可が必要なのか、文部省が扱う事案なのか、ということです。確かに、明治16年（1883）に東京大学が学帽を定める際、文部省に許可願いを出しています。その3年後、帝国大学となり、制服制帽を定める際には文部大臣に伺書を出します。それは官立大学だからであって、私立専門学校である大東文化学院にも許可が必要だったのか。

いくつかの仮説が立てられます。官立の象徴である帝大型を学帽に採用するので、文部省に許可を得る必要があった。あるいは、当時は制帽を定める際、官立と私立を問わず文部省の許可（あるいは届出）が必要であった。さらに、大東文化学院は帝国議会の決議に基づくかたちで設立され、官立と同じ扱いとして文部省の許可をもらえた。

この度の調査では、結論を導き出すには到りませんでした。今後は帝大型に定められた経緯を文書類で確認する必要があります。加えて、他大学の学帽の採用例を把握し、私立では大東だけが帝大型であるのか。さらに、そもそも帝大型と早稲田型の他に異なる型が存在するのか、例証すべき課題です。

本稿で考察した大東の学帽に関して、何かご存知のことがありましたら、この機会にご教示を頂ければ幸いです。

（参考文献）

- 『大東文化大学創立80年記念誌—心は放て天地間、まなこはさらせ世の移り—』（学校法人 大東文化学園 創立80周年記念事業事務局、2003年9月）
- 『大東文化大学七十年史』（学校法人 大東文化学園、1993年9月）
- 『大東文化大学五十年史』（学校法人 大東文化学園、1973年9月）

大東文化大学緑桐編集委員会編「緑桐」(第5号、1973年4月)
「東京の帽子百二十年史」編纂委員会編『東京の帽子百二十年史—明治・大正・昭和—』(冬至書房、2005年5月)
水野理一『東京の帽子百二十年史・資料集』(冬至書房、2005年10月)
文部省『学制百年史』(1972年10月)
難波知子『近代日本学校制服図録』(創元社、2016年8月)

大東文化大学 沿革 (創立から戦後すぐまで)

大正12(1923)年9月 財団法人大東文化協会設立・大東文化学院
(本科・高等科、旧制専門学校)設立認可
大正12(1923)年11月 校舎を麴町区富士見町6丁目16番地に置く(九段校舎)
昭和16(1941)年2月 九段より豊島区池袋3丁目に移転(池袋校舎)
昭和19(1944)年3月 校名を大東文化学院専門学校と改称
昭和20(1945)年4月 戦災により池袋校舎焼失
昭和21(1946)年2月 葛飾区青砥に校舎移転(青砥校舎)
昭和24(1949)年5月 法人名を財団法人東方文化協会と改称
昭和24(1949)年6月 新学制による東京文政大学 入学式挙行
昭和26(1951)年2月 法人名を学校法人文政大学と改め、
大学名を文政大学と改称
昭和28(1953)年3月 法人名を学校法人大東文化大学と改め、
大学名を大東文化大学と改称

(出典) 大東文化大学ホームページ



昭和(1932)年

京は府千代田開 本はこほら世の移り 〇 019

図版1 大東文化学院（大東文化大学の前身）の学生が被る角帽（帝大型）
キャプションには「明治神宮に参拝。昭和7（1932）年」とある。
〔「大東文化大学創立80周年記念誌」（平成15年9月20日）より〕



文章ね。これもまたおもしろい。

米朝●最近小沢昭

米朝●本当に不思議な人やった。け

小沢昭一が引用している私の文章
ころに、「けれども非常に低く見られ
寄席とかいう世界を、学生層とかイン
せたという功績は

多大なも

初では

そ

い

い

型

人とか

大変高く

それを昭

いから学

ようになったの

昭和7年(1932)年、明治神宮参拝時の学生服と学生帽の出で立ちだった。当時の大学生や専門学校生は、皆詰襟の学生服に学生帽の出で立ちだった。

一がエッセイを集めたようなものを出して、その中に
正岡容のことが書いてあって、昔私が正岡容につ
いて書いた文章も引用してありましたが、彼も正岡
容のいわば弟子やからね。変なのが門下にいるん
ですよ。

濱●何か破門された人も結構多いと。

容の力やと思います。

濱●そうでしょうね。やはりいい師に

その弟子はやはり伸びますね。もち

れば、その弟子は伸びないけれども。

米朝●そうですね。私も師匠の米目

生涯売れなかった人ですけどね。

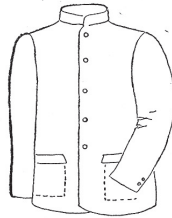
図版2 大東文化学院（大東文化大学の前身）の角帽（帝大型）

キャプションには「当時の大学生や専門学校生は、皆詰襟の学生服に学生帽の出で立ちだった」とある。

〔「大東文化大学創立80周年記念誌」（平成15年9月20日）より〕

学生服制 (昭和二年二月二十日改訂) 大東文化学院

- (一) 帽子
 - 1 型 地質 黒絨
 - 2 型 角帽 (帝大型)
 - 3 帽章 下図ノ如キ『東文』ト云フ金色ニ文字
- (二) 衣袴
 - 1 地質 夏季共ニ紺サージ
 - 2 型 詰襟 (左図参照)
 - 3 鈕 円形内ニ金色『文』ノ文字ヲ刻ス (左図参照)



袖鈕 前鈕



(直径四分五厘)



(直径七分)



(高オ八分 横オ七分)

図版3 学生服制 (昭和2年2月20日改訂) 大東文化学院
「(一) 帽子 2 型 角帽 (帝大型)」とある。
〔大東文化大学五十年史〕 (昭和48年9月) より〕



学帽

図版4 角帽 (帝大型) を紹介する口絵 (写真)
キャプションには「この学帽は文部省において認められ
日本では大東と帝大だけの二つである」とある。
〔大東文化大学緑桐委員会編「緑桐」(第5号、昭和48年4月) より〕

[Essay]

Daitō Bunka Gakuin’s Student Cap : On the Significance of Its “Teidai-gata” Shape

Ryoji Hiruma